

平成 27 年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業

# さいたま 地域力 × 女性力 ブック



さいたま市男女共同参画推進センター パートナーシップさいたま  
一般社団法人さいたまキャリア教育センター

## はじめに

平成 27 年度「さいたまマッチングファンド」一般助成事業として、「女性の知恵で読み取る／発信する講座」を実施しました。募集開始すぐにほぼ定員に達し、「さいたまに、社会の課題について表現したい女性がこんなにいるとは」と、共催のさいたま市男女共同参画推進センター職員の方々が驚くほどでした。本書は、講座参加者による 4 つのグループがそれぞれ企画・取材・作成した記事を中心にまとめたものです。

今、情報があふれる日本の社会に生きる私達には、「大事なこと」「信頼できること」を読み取る力、そして、自分自身の「感じること」「考えること」を発信できる力が必要です。その際、ジェンダー（社会的性差）は重要な役割を果たします。男女共同参画推進とは、ジェンダーによって感じられる「生きづらさ」を軽減することです。また、その人が生き方・働き方など様々な面で自分自身が「OK」だと思えることでもあり、その社会に生きる全ての人が尊重され「生きづらさ」を軽減することでもあります。

講座参加者は、日本の社会に性別による不平等があることを、なんとなく感じている、実際に仕事や生活の中で悔しい思いをしたこともある、大人の女性達です。同時に、その思いを胸に収め、あるいは焦点をすり替えさせられては「現実と折り合いをつける」ことをしてきた女性達でもあります。講座では、彼女達が日本のジェンダーの現状について明確に知り、はっとする様が多く見受けられました。それに続く、非常に意欲的で活発なアイデア出しやディスカッション、そして講座終了後の約 2 か月半にわたる企画・取材の活動……すべてが結実した記事は、さいたまで女性として生活する中にある課題を、それぞれ独自の視点で切り取った力作となりました。

講座の出発点から本書の発行に至るまで、参加・応援・協力してくださった方々に深く感謝します。記事を作成した 4 グループの皆さん、この体験を出発点として、自分自身の目で社会を読み取り、多様な人や生き方が受け入れられる、生きやすい社会づくりへの望みを発信していきましょう。そして、本書を手にとってくださった方、一つひとつの記事に込められた、女性達の生きやすい社会への熱い思いを感じ取っていただければ幸いです。

一般社団法人さいたまキャリア教育センター 代表理事 古川晶子

(女性の知恵で読み取る／発信する講座 企画・運営団体)

# 「さいたま 地域力×女性力ブック」をつくろう！

## 目次

- 1 . . . . . はじめに
- 2 . . . . . 目次
- 3 . . . . . 経済グループ「Team Keizai」  
女性のキャリアとライフデザイン～現在とこれから～
- 8 . . . . . 女性の知恵で読み取る／発信する講座  
「さいたま 地域力×女性力ブック」をつくろう！講座概要
- 9 . . . . . さいたま教育キャリアセンター インターンかなさんのBlog — 開催報告 —
- 11 . . . . . 政治グループ「Ms. Tamako」  
ワーク・ライフ・バランス 10年後の仕事と生活の調和 ～あなたが豊かな人生を歩むためのヒント～
- 16 . . . . . 健康グループ「にじ」  
「健康」をテーマに暮らしを考える
- 20 . . . . . 事務局スタッフ企画  
「地域力×女性力＝無限大の未来」を女性の視点で読み取ってみました
- 22 . . . . . 教育グループ「おやつ（親2）の時間」  
P（ばあっと・ぴりぴり）T（楽しく・たいへん）A（遊びましょう!!・頭痛い）
- 27 . . . . . パートナリシップさいたまスタッフ率直&情熱トーク
- 31 . . . . . 編集後記



## 女性のキャリアと ライフデザイン ～現在とこれから～



経済グループ【Team Keizai】

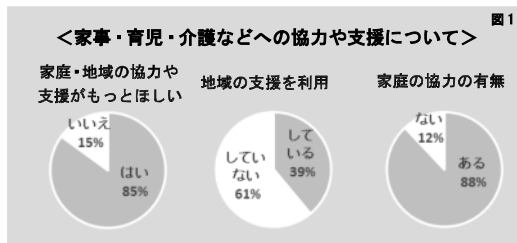
「すべての女性が輝く社会」を目指し、国をあげて女性の活躍促進の施策が実施されています。今回私達は、身近に暮らす女性の声をもとに生活や仕事の現状、そしてこれからについて考えてみました。

### 女性の暮らしの今 家庭の協力や地域とのつながり

家庭や社会で働く「女性の現状」を知るために、さいたま市近郊に住む女性90名にアンケート調査を行いました。アンケートは、家事や育児・介護に対する家庭での協力や地域の支援についての設問から始まります(図1)。

家庭で夫や家族から協力を受けている方は88%。夫が育児および家事を手伝う、という声が多くありました。そして、地域住民の力を借りるほか、子育て支援施設や介護サービスなどの行政支援を利用する方は39%と半数以下でした。

近隣との助け合いが減少している今、家庭の協力や地域とのつながりをもっと必要とする声は85%にもなります。



### 女性が社会で活躍するための課題

家庭での役割を多く担う女性の現状は、夫や家族の協力のもとに成り立ち、地域支援は十分でないことが見えてきました。では、そんな女性達の仕事に対する意識はどうでしょうか。

家庭以外の仕事を持たない女性に就労への希望を聞いたところ、78%の方が「仕事を持ちたい」と回答(図2)。すぐに就労できない理由としては、「子どもの預け先がない」という声が圧倒的に多く、家事や育児・介護に忙しい毎日の中でも「機会さえあれば働きたい」と願う女性が多いことがわかりました。

仕事を持つ女性への設問は、家庭や働く環境への職場の理解について。意外にも「理解がある」の回答は大多数の88%でした。家庭を持つ女性にとって、職場の理解や協力は仕事を継続するために必要不可欠であるといえるでしょう。

### キャリアを磨く その実例を紹介

次頁より、社会で活躍する女性が登場します。出産や子育てを経てキャリアを磨く坂本さん。コミュニティビジネスを通して地域貢献し、思いを実現する桑原さん。「ままのえん」の小林さんと高橋さん。一緒に女性のキャリアについて考えてみましょう。

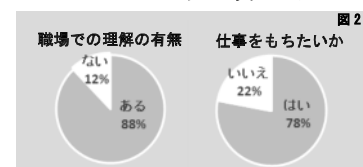


図1・2 2015年10月  
さいたま市近郊在住の女性90名へのWEBアンケート



## 母として働き続けるために

### 【プロフィール】



坂本瑠子さん

東京大学卒業後、大手人材派遣会社、情報サービス会社の営業職に従事。2011年、2014年に出産。育児休業を経て復職し、現在は食料に関する社会福祉活動を行うNPO法人で渉外担当としてフルタイム勤務。

2度の出産・育児を経て、フルタイムで仕事を続ける坂本瑠子さん。3人（4歳と1歳の双子）の育児と仕事を両立させるポイントを伺いました。

### 子育てで発生する問題は二人で考える問題

子どもの体調不良で仕事を休まざるを得ない状況は、働く母にとっては大きな悩み。『育児や家事を一緒に行うのは当然』として、家事育児両面で支えるのは、坂本さんの最大の理解者である夫の光さん。「夫の職場は、育児休業取得実績のある男性がいるなど、男性の育児参加に理解があり、ほぼ半々で子どもの看護が可能だったことが仕事を続けられた要因でした。女性が社会で働き続けるには、夫である男性側

の意識はもちろん、夫の職場の理解が必要だと思えます」と坂本さん。

### 復帰の原動力は「子どもの環境」

元々自身が働いていない状況を想定していなかった坂本さん。「双子出産後も仕事を続ける現実的な手段として、同じ職場への復帰を決断しました。特に、自宅に近く、環境の良い保育園に第1子が入所したことで、この環境を変えたくないという思いが強くなり、復帰への大きな原動力となりました」。

### 子ども達に働く母の姿を見せたい

復帰後ほどなくして今の職場に移ったのは、より情熱をそそげる仕事を求めてのこと。「仕事を辞めることは頭にはありませんでした。娘達が働く頃には、子育て中の母親も働くことが当たり前になると思っています」。坂本さん自ら「仕事に情熱を持って働く母」の姿を見せ、仕事へのモチベーションを高めています。

乳幼児を育てながら仕事を両立させる坂本さん。働く母にとって「家族」と「夫の職場環境」、さらに「保育園など地域との関わり」が重要であることを語ってくださいました。

## 自分を縛らず、頼り頼られ「地域で生きる！」

### 【プロフィール】



桑原 静さん  
【写真提供：シゴトラボ(合)】

NPO法人コミュニティビジネスサポートセンターで勤務後、シゴトラボ合同会社 (<http://www.jibun-lab.com/>) を起業。コミュニティビジネス（地域が抱える課題を解決するビジネス）への支援を行いながら、多世代・高齢者が働く「BABALABO」を運営。夫と6歳のお子さんの3人家族。

長年、コミュニティビジネスを支援し、自身も、その現場となる「BABALABO」を運営する桑原静さん（シゴトラボ合同会社代表）。今回、地域と関わりながら働く意義を伺いました。

### 地域で頼り合いながら誰もが希望ある未来を

現代は少子高齢化に加え、核家族の増加や子どもを持たない夫婦、結婚しない人など多様なライフスタイルがあり、身内だけでは助け合う関係が不足する懸念があります。桑原さんは、その問題をカバーするために、頼り頼られる疑似家族のような関係を、地域の中に作っておく必要があると感じています。「地域

との関係は一朝一夕でできるものではなく、細くてもいいからつながり続け、徐々に関係性を築くことが大事。地域と関わりが多い女性に限らず、定年して地域に戻ることになる男性も、若い頃から時間をかけて、地域との良い関係作りが必要」と教えてくれました。桑原さんの願いは、「どんな人にも活躍の場があり、いくつになっても必要とされる社会であってほしい」ということ。希望ある未来として、高齢者が様々な分野で働ける環境構築は重要課題。シゴトラボでも今後、高齢者が働くことについてのWEBメディア構築や男性版「ジジラボ」の構想があるそうです。

### 自分の心に忠実に 縛りを外してどんな言葉も発信する

桑原さんは、前職で初となる子連れ出勤を実現させています。半年間の育休中に、仕事で職住接近を推奨しながら、子どもを保育園に預けて都内に働きに行くということに、どうしても矛盾を感じて、社長に打診。本当に大変だったと当時を振り返る桑原さんですが、行動したからこそ見えたこともあるようです。

「もし、あなたが踏み出す一步に迷うなら、自分の縛りを外し、どうしたらできるかという発想から考えた方がいい。そして、いろいろな人に話していくことが大事」と桑原さん。「無理」、「できない」という言葉もどんどん伝え、頼ることも必要。自身も「自分にしかできない仕事を優先して選ぶ」と決めているとのこと。頼ることで関係が生まれ、道が開けることもあるのです。

## 地域でキャリアアチェンジ、自ら輝く女性へ

さいたま市で育児中の女性に講座やイベントなどのサービスを提供している企業「合同会社ままのえん」(<http://mamaoen.net>)。今回は、代表の小林あゆみさんと事務局長の高橋めぐみさんに、女性のキャリアアチェンジと、地域に根ざすコミュニティビジネスについてお話を伺いました。

### 就業支援から見た女性と地域の問題は

再就職に不安を持つ女性を「北浦和再就職チャレンジコーナー」でサポートしているままのえん。小林さんはその中で「相談に来られる女性の多くは、子どもや家族に視点が引つ張られがち。自分軸で仕事を選ぶ方が少ない」と感じています。さいたま市は転勤族が多く、配偶者の帰りが遅い、核家族、子どもの預け先が少ないという問題があるそう。小林さんは「就職がすべてではない、起業やボランティアを選ぶのもいいと思う。要は自分の中できちんと腑に落ちているかです」と言います。キャリアアチェンジを踏み出す一歩として、自分の意識の改革が不可欠なのです。

### 企業と繋がることで、生まれたもの

ままのえんがBtoB(企業間取引)に参入した理由を高橋さんに伺いました。「ビジネスを継続させるにはお



ままのえん代表  
小林あゆみさん



ままのえん 事務局長  
高橋めぐみさん

ビジネスを活性化させ地域や女性に貢献。企業と女性をつなぐ「架け橋」となっています。

### 地域に根ざす働き方が、子ども達の愛着につながる

「地域に根ざすことで愛着やつながりができ、子ども達にも直に還元できる」と小林さん。ままのえんは、女性の状況を踏まえ、地域と関わりながら柔軟な働き方を実践しています。在宅ワークや住まいに近い職場で働くことにより、地域愛や家族愛を促し、キャリアアチェンジの方法の一つとして成り立っています。

### 「能動的に動くこと」が輝く女性になるためのカギ

小林さんは「自分の人生は自分で決めよう。将来の明確なビジョンを持ち、今できることを前向きに取り組み覚悟が大切」と語ります。「自分の軸を持ち、目的達成のために能動的に動ける人になること。自分育ての場であるままのえんを通じてつながっていたら」と高橋さん。地域と女性の架け橋として、これからのサービス充実にも期待が高まります。



社会で活躍する女性4名に、それぞれの思いをお聞きしました。ここで再び、アンケートに寄せられた「女性達の声」を紹介します。

### 「仕事をする目的」と「時間の使い方のポイント」

女性にとつての「仕事をする目的」とは。「家計を支えるため」という現実的な声はもちろんですが、「育児以外の時間を持つため」や「生きがい」、「自己実現」、「社会貢献」といった意見も。自分らしさを求め、目標を達成したい気持ちをあらわしています。また、家事と仕事を両立するための時間の使い方のポイントを聞くと、「優先順位をつける」、「完璧を目指さない」などの回答が多く、全てをこなそうと思わずに割り切ることも時には必要だと気づかされます。

### 働く女性をとりまくふたつの環境

これまでのアンケートや取材より、女性が社会で働き、活躍するためには「家庭」と「職場」のふたつの環境が大きく影響すると考察します。家庭では、家族の協力、子どもを安心して託せる場所、自身が自由に使える時間の確保などが必要に。職場では、限られた条件で働くことへの理解が重要です。ふたつの環境を揃えられてこそ、女性が社会で輝き続けることが可能になるのです。

### さまざまなライフデザインを描くための選択肢

では、働くための環境を整えた時、どんな働き方の選択肢があるでしょうか。正社員、パートタイマーなどの場合、個々の条件にあった職場と出会い、良い関係を続けたいと望みます。在宅ワーカーやフリーランスといった時間に縛られない働き方で自分の力や経験を活かす人も増えています。自らの強い信念を胸に「起業」する女性もいます。

どんなライフデザイン(生き方や働き方)を選ぶにしても、女性にとつて家庭と仕事のふたつの役割を果たすのは容易なことではなく、「強い気持ち」や「覚悟」を必要とします。

### 女性の暮らしのこれから「地域とのつながり」が鍵に

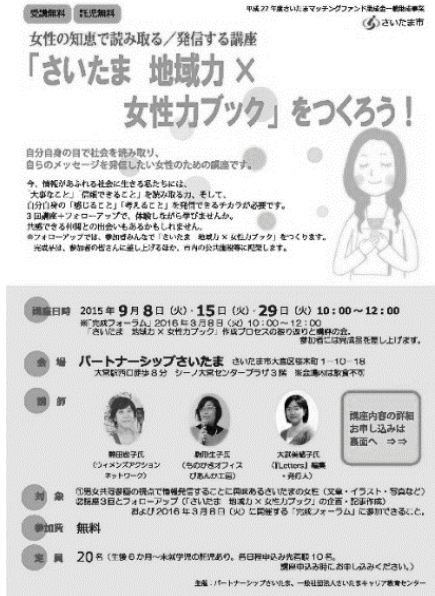
女性にとつて家庭以外に力をくれる存在が「地域」ではないでしょうか。自らアンテナを張ることで、職との出会いやキャリアアップ支援、イベントや講習会、困っている問題の相談先など、さまざまな機会や情報を得ることができます。「地域」での年齢や性別を問わない多世代の人達との出会いから「思いがけないヒント」や「次の一步を踏み出すきっかけ」が見つかるかもしれません。

今後変化していく暮らしの中で、家庭や職場で懸命に力を発揮している女性が「地域」と力を合わせ、より豊かな生活や社会とのつながりを築けることを強く願います。

女性の知恵で読み取る／発信する講座

「さいたま 地域力×女性カブック」をつくろう！

－ 講座概要 －



平成27年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業  
さいたま市

女性の知恵で読み取る／発信する講座  
「さいたま 地域力×女性カブック」をつくろう！

自分自身の目で社会を読み取り、自らのメッセージを発信したい女性のための講座です。

今、情報があふれる社会に生きる私たちには、  
「大切なこと」「信頼できること」を読み取る力、そして、自分自身の「感じること」「考えること」を発信できるチカラが必要です。  
3回講座＋フォローアップで、体験しながら学びませんか。共感できる仲間との出会いもあるかもしれません。

※フォローアップは、参加費が別途「さいたま 地域力×女性カブック」をつくります。  
※定員は、参加費の倍さんに達した時点で、先着の順に募集が終了します。

開催日時 2015年9月8日(火)・15日(火)・29日(火) 10:00～12:00  
※「実践フォーラム」2016年3月8日(日) 10:00～12:00  
※会場、収録料×女性カブック、作業プロセスの事前の研修の費用は別途必要です。

会場 パートナースHIPさいたま さいたま市大宮区幸町1-10-18  
大宮駅前ビル8号 シーノ大宮センタープラザ3階 ※会場費は取費不可

講師 熱田敬子氏 (ウィメンズアクションネットワーク)  
駒形生子氏 (ものかきオフィス びあんか工房)  
大武美緒子氏 (『Letters』編集・発行人)

講座内容の詳細お申し込みは 電話へ ☎

対象 18歳以上20歳未満の未婚の女性  
※既婚3回とフォローアップ(「さいたま 地域力×女性カブック」の企画・記事作成)および2016年3月8日(日)に開催する「実践フォーラム」に参加できること。

参加費 無料

定員 20名(主催の枠～本校学習の枠あり、各日程申込み先着順10名、個別申込み時に調整します)

主催 パートナースHIPさいたま、一般社団法人さいたまキャリア開発センター

『自分自身の目で社会を読み取り、自らのメッセージを発信したい女性のための講座です。』

今、情報があふれる社会に生きる私たちには、「大切なこと」「信頼できること」を読み取る力、そして、自分自身の「感じること」「考えること」を発信できるチカラが必要です。3回講座＋フォローアップで、体験しながら学びませんか。共感できる仲間との出会いもあるかもしれません。』

この呼びかけで、2015年9月8日から3回に渡って、平成27年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業活動として「さいたま地域力×女性カブック」の講座がスタートしました。

－ 講座の内容 －

	日程	テーマ	講師	内容
第1回	9/8(火)	女性の知恵で読み取る／発信するはじめの一步	熱田敬子氏 (ウィメンズ・アクション・ネットワーク)	当事者主体の情報発信についての基本的な考え方と、日本の女性を取り巻く社会状況についての講義。
第2回	9/15(火)	「さいたま 地域力×女性カブック」編集会議	駒形生子氏 (ものかきオフィス びあんか工房)	冊子コンセプトと作成のプロセスおよびスケジュールを共有し、記事テーマ・作成グループ等を決めるワークショップ。
第3回	9/29(火)	女性の知恵を伝えるライティング基礎知識	大武美緒子氏 (『Letters』編集・発行人)	的確に伝わるライティングと、知らないトラブルを招くこともある著作権や肖像権についての講義。

## さいたまキャリア教育センター インターンかなさんの Blog - 開催報告 -

### 第1回 女性の知恵で読み取る/発信するはじめの一步

---



熱田敬子先生の講義の最初に、新聞、雑誌などに掲載されている広告を見て気づいたことを話す時間がありました。

広告だけでも男性と女性でこんなにも印象が違うのかと驚きました。男性向けの広告ではあまり使われていないピンク色が、女性向けの広告では「女性＝ピンク」という考え方があり、よく使われているという話を聞いて、ピンクを使った広告が多いのはなぜだろうという疑問を以前から持っていたので、納得しました。男女の広告で比較するからこそ見えてくるものも多かったです。

続いて、日本の女性と男性の格差についてお話を聞きました。日本の「ジェンダーギャップ指数」が予想していたよりも低かったことに驚きました。今の日本には様々な格差があるということを知り、自分の視点を持つことの大切さと難しさを感じました。また、何が知りたいのかをハッキリさせることはとても重要なことなのだと学びました。普段の生活の中にもたくさんの差別があるということ、今回のお話を聞いて改めて気づかされ、とても衝撃を受けました。



そして、女性に対する差別だけではなく、男性に対する差別もあると思うので「差別とは何か」、もっときちんと考えていかなければいけないと思いました。

### 第2回 「さいたま 地域力×女性力ブック」編集会議

---



今日は「さいたま 地域力×女性力ブック」をつくるためのグループ分けとテーマ決定の話しあいを行いました。

「健康」・「教育」・「政治」・「経済」をキーワードに、4つのグループに分かれて、それぞれ具体的に話を進めました。話しあいの前の講義で、講師の駒形生子さんがそれぞれのキーワードについて具

体的な例を挙げていたので、参加者の方々もイメージしやすかったのではないかと思います。

グループ分けする時に自然にグループが決まり、話しあいの時も積極的に自分の興味のあることについて話しあっていたので驚きました。また、グループによって話しあいの仕方やまとめ方に違いがあって面白かったです。最後に、各グループの名称・テーマなどを発表しました。1時間ほどの短い時間で話したとは思えないほどの具体的な企画で、話もまとめていたのですごかったです。具体的な取材先候補を何個も挙げているグループがあり、日常生活の中でもそういった情報に興味をもって生活していないと出てこないと思います、とても印象に残りました。様々な情報に興味を持つことは、自分の視野を広げるために大切で、見習いたいと感じました。

### 第3回 女性の知恵を伝えるライティング基礎知識

編集者の大武美緒子さんから、文章の書き方と著作権・肖像権についての講義を聞きました。文章の書き方で、漢字にするのか、ひらがなにすることを記事によって変えるという話を聞いて、一つひとつの言葉に意味があることがおもしろいと思いました。また、語尾の重複を避けることで、読み手の受け取る印象が変わるということが事例を通してわかりました。今まで意識したことはな



かったけれど、これからは意識して文章を書こうと思います。著作権・肖像権については様々な事例を挙げた話だったので、状況を想像しやすくてよかったです。これまで、著作権・肖像権は難しくあまり理解できていませんでしたが、今回の講義を聞いて少し理解することができました。講義を聞いて、多くの人達が無意識のうちに著作権や肖像権を侵害していることに気づき、知らないということは怖いと思いました。

また、私と同じように正しい知識を身につけていない人がいると思うので、今回の講座のように改めて学ぶ機会があるのはとても良いことだし大切だと感じました。

(跡見女子学園大学 マネジメント学部)

「アカデミック・インターンシップ・プログラム」参加学生)

## ワーク・ライフ・バランス 10年後の仕事と生活の調和

～あなたが豊かな人生を歩むためのヒント～

政治グループ：Ms.Tamako

人生の中で、仕事は暮らしの糧<sup>かて</sup>、生きがいや充実感をもたらすものです。女性について考えた時はどうでしょう。結婚や出産、介護で環境が大きく左右され、仕事を辞めたり、働き方を変えざるを得なかったりと、影響を受けやすいのが現状です。国や自治体、企業は、仕事と生活の調和の実現に向けて、指針を設けたり、支援策を講じたりとさまざまな取り組みをしています。

内閣府が策定した「仕事と生活の調和憲章<sup>\*1</sup>」では「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」とし、「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告<sup>\*2</sup>では、「老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態である」と定義しています。それにのっとり、多様な勤務制度の導入や時間外勤務の削減、従業員の子育て支援や資格取得支援、ボランティア活動休暇などを取り入れ、実現に向けて取り組み、成果につなげている企業が増えています。

私達は、現在 10～20 代の若い世代が人生の大きな転換期を迎えるであろう 10 年後、このような働きかけがもたらす社会環境の変化を探るため、さいたま市内で先進的な取り組みをしている一時預かり専門託児所と福祉施設の経営者へのインタビューを行いました。そして、「男女共同参画社会」に関するアンケートを実施しました。

<sup>\*1</sup> 内閣府が 2007 年 12 月、関係閣僚・経済界・労働界・地方公共団体の代表者などによる官民トップ会議にて策定。憲章内「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」より一部抜粋

<sup>\*2</sup> 「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告内「ワーク・ライフ・バランスとは何か」より一部抜粋(2007 年 7 月、男女共同参画会議「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会」)



## すべてのママを笑顔に

株式会社ママスマ

代表取締役 近藤美奈子さん



### 好きな言葉

「美点凝視」(びてんぎょうし)

同じ事実でも捉え方はさまざまですが、美点を見るように皆が意識すれば世の中が変わるかもしれませんね。

プロフィール/2012年、全国でも珍しいテナント店舗提携を含む一時預かり専門託児所「ママズスマイル」を開業。「託児に理由や罪悪感はいらない」をモットーに、「ママの笑顔によって日本経済を救う」未来を目指し、全国へのフランチャイズ店を展開中。

### 一時預かり専門託児所「ママズスマイル」

【大宮東口店】さいたま市大宮区仲町2-85アグ  
シスコア2F 電話：048-871-5973  
【大宮西口店】さいたま市大宮区桜木町2-7-8  
第11松ビル2F 電話：048-782-2857  
ホームページ：http://mamas-smile.com/

10年間、ヘアメイクのプロとして活躍していた近藤美奈子さん。第一子の出産を機に専業主婦となり、子どもを預ける困難に直面しました。自身の経験から2012年、「自分の時間が欲しい」などの仕事以外の理由では託児利用が難しいという問題を解決するために、一時預かり専門託児所「ママズスマイル(以下ママスマ)」を立ち上げました。そして、近藤さんと同じ思いを抱くママが、錦糸町や川口市にフランチャイズ店をオープン。「私もママスマの存在に支えられた一人です」「ママ達の子育てが楽しく幸せな時間となりますように」という願いの輪が広がり、3年間で6店舗、約1500人に会員数を増やしています。(2015年12月現在)

専業主婦が託児を利用する際、周囲だけでなく本人も抵抗を感じる人が多いようです。しかし、現実には一人で育児を背負い、体力的にも精神的にも負担を抱え込んでしまうママがいます。初めてママスマを訪れ、会員登録

中に泣きだしてしまいうママもいたそう。近藤さんは、「託児に罪悪感を抱く方が多いのですが、親に余裕がないと子どもにも影響します。子どものためにも、時には親から離れる機会を与えて欲しい。託児が当たり前となる世の中になりたい」と話してくれました。

現在、近藤さんは仕事に全力投球の日々を送りますが、運営業務の合間にプライベートを上手に取り入れてどころにも楽しんでいきます。「託児付きのお店をもっと増やしたい」と、美容院やコワーキングスペースなど提携店舗も増加中。子連れでも気軽に外出でき、ママの負担を軽減できる社会であれば、親になって子を育てることの抵抗が減り、少子化対策にもつながるでしょう。ママスマを利用して「自分の時間」を次の人生のステップに活用しはじめたママ達が、活き活きと輝きはじめています。理想的なワーク・ライフ・バランスを実現しづらい育児中の親を、現役ママの近藤さんが応援しています。

## 地域の支え合いから生まれる信頼 関係と生きがい

有限会社福祉ネットワークさくら  
代表取締役社長 横山由紀子さん



### 好きな言葉

「壁にぶつかった人は幸せだ。壁にたどり着けない人が大勢いるのです」  
何かに直面した時に必ず思い浮かぶ言葉。乗り越えていく大きな支えです。

「住み慣れた地域での支え合い」を実践している「福祉ネットワークさくら(以下さくら)」は、福祉のサービス提供と地域雇用を軸に、昔ながらの顔が見える付き合いの輪を広げています。

さくらを起点とした2.5 Km圏内に活動地域を限定することで、自然と家族とも関わり合いができる職場となり、それぞれの事情に応じて支え合える労働環境が形成されています。例えば、さくらを以前利用した方の家族がスタッフとして働いたり、スタッフが家族のために利用したりという事例や、スタッフの都合に柔軟に対応した勤務時間などがあります。

また、一部職種の定年制の緩和や障がい者雇用を導入しています。このことは、各々の可能性や個性を活かし、共に成長し合える学びの場となり、業務にも活かされています。

お互いを支え合う心が根付いているさくらのスタッフは、自然とワーク・

ライフ・バランスを実現する環境にあり、結果としてスタッフの家族や利用者、利用者の家族のワーク・ライフ・バランスも実現へ導いているのです。

横山さんご自身は、会社が転換期である現在、仕事中心の毎日です。そのため、家庭では家族の食事と会話を大切にし、週に一度は自分の時間を作るように心がけることで、ご自身のワーク・ライフ・バランスを保っています。

横山さんは、さくらに関わる人々とのコミュニケーションから、さまざまなことを学び取り、現場で活かすことで、より豊かな社会の実現を目指しています。同じ目的に向けてのアプローチは人それぞれ。多様性を認め合い、寄り添うことで、共倒れせずに進んでいることを学んだとのこと。経営者として、変化や求められるものを受け入れていく姿勢は、さくらの更なる発展となり、関わる人々の生きがいへとつながっているのでしょう。

プロフィール／高等学校家庭科教員、管理栄養士などの職を経て、介護保険制度に対応する事業立ち上げのため、ケアマネジャーの資格を取得。事業を担う。2012年より代表取締役社長として福祉ネットワークさくらを運営。福祉に関するさまざまなサービスを展開。

有限会社福祉ネットワークさくら

さいたま市浦和区上木崎6-9-3

電話・048-831-1079

ホームページ：http://www.net.sakura.jp/

## さいたま市民に聞きました！ 理想は仲良くはんぶんこ「あなたのリアルはどのあたり？」

政治グループでは「男女共同参画」に関するアンケートを実施。ママスマの近藤さん、さくらの横山さんにもご協力いただきました。4つの設問は私達さいたま市民の素朴な疑問。主観で自由にシールを貼ることで新たな気付きが！早速、さいたま市在住の2人の女性、Aさん(10代の子ども2人。パートタイマー。仕事も遊びも大切なアクティブ派)とBさん(幼稚園・小学生の子ども3人。医療関係職員。3世代同居のパワフルママ)の井戸端会議が始まったようです。さあ、あなたも参加してみてください！！

### Q1.「仕事の報酬に男女の公平を感じる」

A：シールは広範囲に広がっていて、公平ではないと感じている男性も割りと多かったわ。

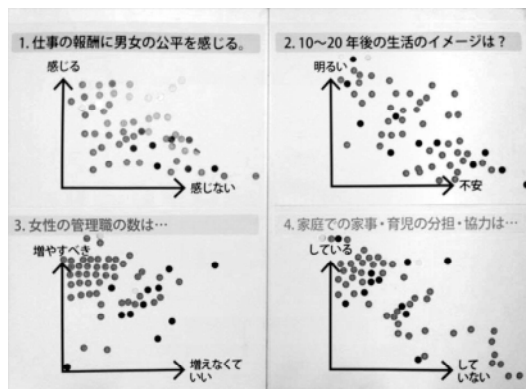
B：「大きな組織ほど公平とは言えないかも(男)」「仕事の種類や内容によるのでは？(女)」というコメントが多く、報酬の実態は見えにくいよね。

と力強い回答で元気がもらえました。私達一人ひとりの意識と行動で、男女ともに明るい未来を創るぞ～！！

### Q3.「女性の管理職の数は……」

B：圧倒的に「増やすべき」が多いね。男性がシールを貼る位置を迷っていたのが印象的だったわ。これは男性主体で働く社会から、女性管理職を増やす傾向の社会変化に男性側が一抹の不安を感じているからかしら？

A：女性からは「女性管理職の数が少なすぎるから世の中のバランスが取れていないんじゃない？(女)」「自分がバリバリ仕事するイメージがもてない(女)」の声も。男女共に社会の流れと自分の現状とのギャップが垣間見れたわね。



期間：2015年9月29日～11月4日／対象：20～50代の男女58人(内訳：男性11人、女性47人)／回答者：取材対象者、さいたま市内の各種イベント参加者、当講座参加者、他／※男女比・年齢・自身や家族の状態(専業主婦・独居・実家 他)や社会的な情報量など判断には個人差があります。

### Q2.「10～20年後の生活のイメージは？」

B：極端な傾向はないようだけど、「不安」を感じている男性が多いみたいね。男性の社会的立場は大きなストレスみたい。「先のことすぎて分からないけど仕事あるかな～(男)」という声が印象的だったわ。

A：近藤さん、横山さんともに「明るい」

### Q4.「家庭での家事・育児の分担・協力は……」

A：この設問のコメントが一番多かったのよね。「自ら進んでやる」と声高な共働き夫さんや「妻のサポートのみ」のサラリーマン夫さん。

B：「家事は係を決めていて助かっている」「家事育児のメインはわたし。その方が効率的」という妻達のリアル。実態を生き活きと話す皆さんの顔に力強さを感じたわ。

あなたの回答はいかがでしたか？頷いたり、考え込んでしまったり、思わずツッコミ！など。家族や友達、職場の仲間などと井戸端会議の続きをしてみてくださいね～！

## 終わりに

ママスマの近藤さん、さくらの横山さんともに、サービスを利用する人の声を拾い、足りないものは何なのかを追求することで、地域で受け入れられ、より求められる存在となっています。

3世代同居も珍しくなった現在、家族の形態もさまざま。それに合わせた受け皿が必要なにも関わらず、意識や制度は置き去りです。子育てに関して苦しい思いをしている人がたくさんいることを、近藤さんのインタビューから学びました。

また、横山さんがインタビューの中で、福祉国家で有名なスウェーデンを訪れた際、「男性がベビーカーを脇に置いて仕事をしている姿を目の当たりにして、日本でもそんな光景が普通に見られるような日がきてほしいと思いました」と話す場面がありました。

スウェーデンの育児休暇取得率はとても高く、子育てに分担や協力といった概念はないのかもしれませんが。日本とスウェーデンとは、子育てにおいて意識や制度の活用に大きな差があることを改めて感じました。

ママスマやさくらのような取り組みをしている企業はまだまだ少数かもしれませんが。しかし、ワーク・ライフ・バランスを大切にした働き方の実践や、地域での支え合いを働きかける仕組みは、社会を変えていく大きな可能性を秘めています。

企業がワーク・ライフ・バランスを意識した取り組みをすることで、個人の暮らしに余裕が生まれ、地域に自然と目が向くようになるでしょう。そして、何らかの支援やボランティア活動、あるいは起業などによる社会貢献が進み、地域の暮らしの豊かさにつながるのではないのでしょうか。こうしたワーク・ライフ・バランスと地域社会の関係認識が広がれば、好循環が生まれていくことでしょう。願うだけでなく、行動を起こすことで変革を生み、よりよく変化していくことがインタビューを通してはっきりと見えました。

政府は「国民一人ひとりが輝ける未来」をつくるために、さまざまな政策を打ち出しています。それら政策の効果が出ているであろう10年後、活躍の中心となるのは、現在10～20代の若い世代です。彼ら、彼女達がより自分らしく活躍し、より共生しやすい社会となることを願っています。

川名亜矢子、田中明子、田村磨弥

健康グループ にじ



「健康」をテーマに  
暮らしを考える

取材協力：風の谷農場三宅ご夫婦

## 「インスタント」な社会の中で

ぱぱっとすぐ、ささっと手間をかけずに。そんなインスタント食品のように、気がつけば私達の暮らす社会全体が、即席な考え方や暮らし方に、どこか慣れてしまっていないでしょうか？家に居ながら世界の情報がインターネットを通じて一瞬でわかる反面、暮らしからリアルな体験が遠のいています。あふれる情報を鵜呑みにすることなく、自分の目と耳と心で本来大切な「なぜ？」を考え、自分自身と向き合う時間さえインスタントに済ませてしまっていないでしょうか？

## 暮らしをシンプルに丁寧に

世界保健機構（WHO）憲章前文では「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。（※1）」と定義しています。今回、私達は「健康」をテーマに暮らしを考え「作る」「食べる」「動く」のリアルな体験をしました。はじめに、さいたま市緑区で有機無農薬農業を営む風の谷農場の三宅ご夫婦を訪ね、野菜づくりの現場取材しました。※1 世界保健機構（WHO）憲章前文 健康の定義（日本 WHO 協会仮訳・一部抜粋）

開発が進むさいたま新都心から車で数十分。「見沼たんぼ」で2006年から農業をはじめた三宅将喜さん、愛子さんご夫婦が営む『風の谷農場』。海外放浪の旅をきっかけに農業を学び、年間60種類以上の有機無農薬野菜を育て自然と共存する暮らしを実践。野菜づくりを通してご夫婦が大切にされていることを伺いました。

—野菜づくりの魅力とは?—

6~7年農業を続けて感覚がつかめてきましたが、今も試行錯誤の日々です。自然を相手に厳しいこともあります。土から離れられない魅力が農業にはあります。育てる野菜により土を替え大地の力を引き出せるように意識し、種にもこだわり、F1(エフワン=雑種第一代)ではなく在来種を育てて、種の研究も続けています。



里芋の収穫風景

—どのような思いで農業へ取り組んでいますか?— 田んぼの一部を借りてやらせていただいている、という気持ちです。野菜づくりを通じて、自然豊かな「見沼たんぼ」を子どもたちの未来、次世代のために残していきたいです。

**風の谷農場**

【住所】さいたま市緑区代山 【電話】048-878-7053

季節の野菜を7~10種類、1箱2300円(税別)で宅配します。配送料は別途です。お届けは、ご希望により毎週・隔週・月1回を選択できます。詳しくは風の谷農場までお問合せください。



大きな空が広がる大地 三宅農場



野菜とレシピが一緒に届く



収穫したての掘りたての里芋

—取材を終えて— 自然を相手にシンプルな生き方、考え方、内に秘めた情熱を感じ、日々の暮らしを丁寧に意識するきっかけとなれたら嬉しいです。(担当:平澤)

## 大地の味 そのもの、そのままを

身体が喜ぶ季節の野菜を上手においしく味わいたい！そんなシンプルな料理法が、「蒸す・ふかす」。風の谷農場の掘りたての里芋を、泥を手洗いして蒸し器で数分。ほっくり、ねっとりの蒸かしたてをシンプルな塩味で。身体にしみ込む野菜の力。子どもと一緒に「いただきま〜す！」はじめはちょっと苦い表情。でも「これが本当の里芋の味だよ」と伝えると「そっかあ」という顔に。土と風と太陽がつくる季節の野菜を我が家流にアレンジ。これから味わえる春の大地、そのものそのままを我が家の食卓へ。



### ■風の谷農場 愛子さんに教わる菜の花ごはん

菜の花の季節に、おすすめの一品。

茹でて細かく刻んだ菜の花を温かいごはん混ぜ、塩、ごま油少々で調味して出来上がり。



### ■ピーマンナムル（子どもに野菜を食べてほしいメニュー）

ピーマン中3個（目安）を細切りしてレンジでチン（3分）、ごま油大さじ1、鶏がらスープ小さじ1、醤油少々で味つけをします。仕上げの白ごまはお好みで！

※野菜の水分、家族の好みで調味料は調整。



### ■水菜もやしにんじん de ナムル

食べやすい長さに切った水菜、ゆでもやし（ゆで時間1分半）、細切りしたにんじんを準備。めんつゆ大さじ3、ごま油小さじ1、砂糖小さじ1/2で和えます。仕上げの白ごまはお好みで！※野菜の水分、家族の好みで調味料は調整。

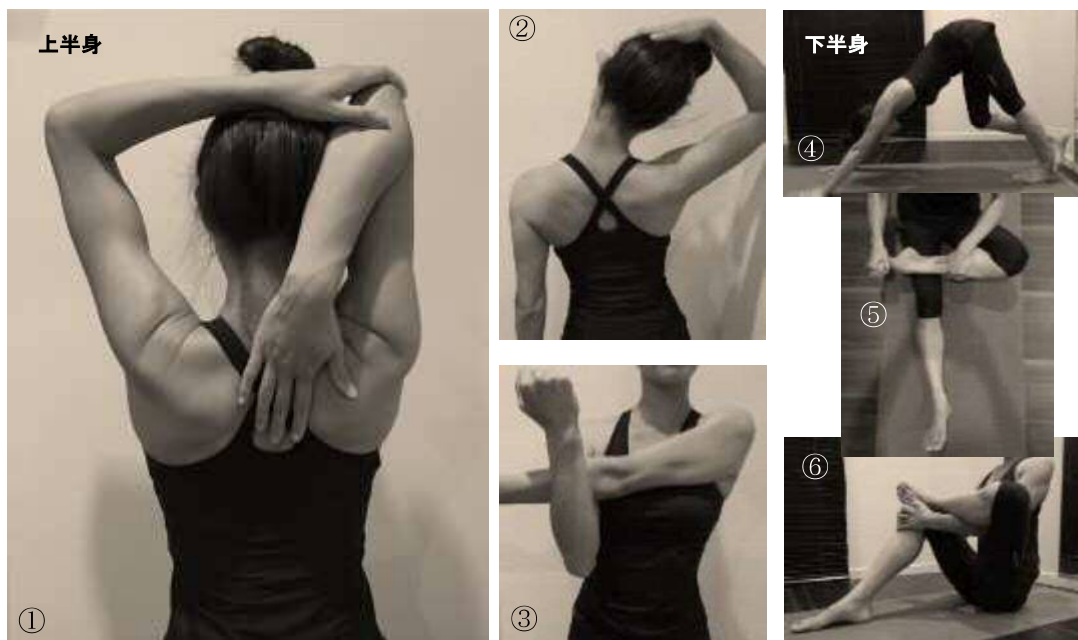
—野菜はともだち— 私には、5歳の子どものお供、苦手なものでも食べてもらえるように毎日試行錯誤しています。今回取材で伺った風の谷農場で、野菜の食べ方、扱い方を再認識しました。野菜の苦手な子どもには、調理や味つけを工夫すると「おいしい」と言ってくれますよ。（担当：新井）



## つながる心と身体と私

心と身体、身体と食べ物は、太いパイプでつながっています。自分の身体、大切にしていますか？身体にじっくり触れてストレッチをする、腹筋を意識して呼吸をするなど、普段の暮らしを見直して身体に向き合い、ストレッチやジョギングなど今すぐできることから、運動をはじめませんか？

■**ストレッチの一例** 呼吸は止めずに鼻から吸って口からゆっくり吐きます。



①腕を後ろに回し、反対の手で肘を押しえ二の腕をストレッチ。②肩が上がらないように首を横に倒し首のストレッチ。③体の前で腕を交差させ、反対の腕で支え肩甲骨のストレッチ。④手と足を地面に付き、片足を反対の足首にかけ腿とふくらはぎを伸ばす。⑤足の指先を持ち、足首を大きく回す。(右回り・左回り)⑥片足を立て、反対の足首をひざ上に交差させ、お尻を伸ばす。

◆さいたま市 ジョギングしやすい公園ガイド◆ ※衝撃を和らげるゴムチップウレタンが設備  
岩槻文化公園（岩槻区）・大宮第三公園（大宮区）・埼玉スタジアム 2002 公園（緑区）  
番場公園（北区）・別所沼公園（南区）

一日々の生活にプラスして— ①仕事帰りに家まで歩く。②旬の野菜をおいしく食べる。③アロマなど好きな香りのお風呂で 1 日の疲れをリフレッシュ。生活を少し変化させることが健康につながります。自分にあう方法を見つけましょう。(担当：渡部)

「健康」とは？ 普段の暮らし、シンプルに、丁寧に。(ページレイアウト：田島)



事務局スタッフ企画

平成27年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズ

## 「地域力×女性力」無限大の未来

を女性の視点で読み取ってみました

『さいたま 地域力×女性力ブック』のタイトルは、平成27年度「男女共同参画週間」のキャッチフレーズ「地域力×女性力」無限大の未来」をアレンジしました。この作品は、内閣府で「身近な女性の活躍を地域ぐるみで応援するキャッチフレーズ」女性力を活かして元気な地域社会をつくるために」をテーマに、公募によって選ばれたものです。

「地域」と「女性」について、事務局スタッフ4人（駒形・遠藤・細田・古川）で話してみました。



駒形生子

フリーランス編集者。  
『さいたま 地域力×女性力ブック』（以下『ブック』）編集長としてプロの手腕を発揮。



遠藤ひろみ

ココロアロマセラピスト。  
マルチな才能をいかして『ブック』デザイン・レイアウト・イラストなど視覚面を担当。

古…さいたま市という地域、女性としてどう思いますか？

駒…子どもが生まれてみたら、「母」向けの講座がたくさんあつていいなーと思いました。子どもが未就学児の時は、

託児付きも多くて助かりました！

遠…そういう目で見ると、「母」あるいは「ママ」と名前が

付く支援は多いですね。でも実は、自分の子どもが小さい

時は全然気づかなかつたので利用していません（苦笑）。

細…さいたまはもともと地元でしたが、夫の転勤で各地をま

わつて、子どもが思春期になってから戻ってきました。幼

稚園や小学校の保護者つながりがない中で、「自分の友人」

をつくるのに苦労しました。

古…子育て女性には手厚いけど、それ以外には支援が薄いと

いうことかもしれませんね。女性の在りようは、「母」以

外にもいろいろなはずですが……。

駒…子どもが生まれる前は、さいたまは仕事が終わって寝に

帰るところ、休日を過ごすところでした。子どもが生まれ

てから「家族で過ごす場所」になって初めてちゃんと目を

向けたのだと思います。

古…女性も地域も、子育てがなければ、お互いに関心ないと

いうことでしょうか（笑）。

遠…さいたまに住んで6年経ちますが、去年まで地域と関わること何もしませんでした。今年になってやっとさいたまで活動しはじめたので、分からないことが多いです。昼間は女性が多く、自分の活動ややりたいことを話せる、発言を聞いてもらえる場がたくさんあると感じます。

細…私も、さいたまに戻ってくる前からずっと続けている活動のおかげで、受け入れてもらえる場があり、地域に溶け込むことができました。

古…女性の活動を応援してくれる地域ということですね。

駒…さいたま市内には、地域で活動する人が集う場が、公民館やコミュニティセンター、カフェなど、たくさんありますね。そして、人の属性が程よく混ざっています。ずっと地元の人、戻ってきた人、新しく来た人、転勤で期間限定の人など、いろんな人がいて、風通しがよくなっていると思います。

遠…私も、生粋の地元の方が少ないことで、新しいことを始めやすく、柔軟性のある地域だと思っています。活発な市民団体が多く、市独自のイベントなど発表の場がいくつもあるので活気を感じます。チャンスが多くてうれしいです。細…市内のいろんなところで活動している女性達が、お互い

の活動を接点としてゆるくつながっています。ゆるいつながりを、さらにつなげたり広げたりする力があるのが、さいたまの「地域力」ではないでしょうか。

古…「地域」というと、自治会や町内会によるお祭りや子ども会のイメージがありますが、それとは別の「地域力」があるということですね。

駒…女性だからこそ可能なかもしれません。出会ったばかりでも、目的がはっきりしていれば、チームになって力を発揮することができる場所があると思います。

遠…女性は、人とつながることがうまいですね。上下関係でなく、柔軟に関係性をつくり、思いつきを行動にできるもので、新しいものを立ち上げる時に力を発揮します。

古…この事務局もそうやって立ち上がり、動いています(笑)まさに「女性力」発揮中です。(2015年11月)



細田恭子  
帝王切開カウンセラー。  
三姉妹（社会人と大学生）  
の母。夫の転勤先で活動を  
始めて16年目。



古川晶子  
キャリアコンサルタント。  
さいたまで大人にキャリア  
教育を普及するワーク  
ショップを展開中。

(^-^)/ ぽあっと (P) ぴりぴり  
 楽しく (T) たいへん  
 遊みましょう!! (A) 頭痛い! (>\_<)

教育グループ



★PTA、あなたは楽しいですか？

皆さん、PTA活動にどんなイメージをお持ちですか？楽しんでそう？おもしろそう？それとも……。

実際に活動をしている人達の感想を聞いていくと、大変だったとげんなりしたり、理不尽さに憤ったり、なかなか苦勞が絶えないという話をあちこちで聞きます。

PTAとは本来、先生と保護者が子どものために学校においてボランティア活動をする組織です。しかし昨今ではその「子どものため」を大義名分に、無償での奉仕を強要されたり、事情があっても「平等に負担するべきだ」とくじ引きやじゃんけんなど不条理な方法で作業を分担されたりします。その結果、楽しむというスタンスで参加しにくくなっているのが現実のようです。

★希望もてるPTAを目指して

たとえばPTAの役員決めの場などで、

「私はもうPTAの役員をやったんだからお役御免よ。次はあなたもやらなきゃズルいじゃない」

他の保護者に対しそんな風に思ってしまったことのある人も多いのではないだろうか。そもそもボランティア活動はやりたいたいと思う人が自発的に行うものであり、公平を求めるとき点で難しいのですが、「やらないとズルい」という感情が芽生えるところからもPTAがおかしな方向に来ている印象があります。

もっとサークル活動のように、やりたい人が能動的に楽しんで参加できるような組織にするべきなのです。

そして多くのPTAは母親である女性を中心に活動を行っています。母親以外にもPTAに参加できる、やってみたいと思える人がいるかもしれせん。たとえば父親や祖父、地域の人などです。

希望もてるPTAを目指して、どうしたらたくさんの方がやってみたいと思える組織になるのか、私達は考えてみたいと思います。



★みんな、PTAをどう思っている？

では実際のところ、子どもを持つ父親・母親は、PTA活動についてどのような考えを持っているのでしょうか。

私達はリアルな生の声を聞きたいと思い、アンケート調査を行いました。

- ・調査期間：2015年10月～11月
- ・対象者：さいたま市近郊在住で小学生以上の子どもを持つ父親、母親
- ・回答数：父親9名 母親40名

★アンケート結果から見るPTAに対する母親の本音

PTAに参加したい？



この設問から、PTA活動に対しそれほど後ろ向きではないということがわかりました。「面倒だ」「人前に出るのが苦手」「仕事・家事・育児との時間的・精神的・金銭的両立の難しさがある」という意見がある一方で「保護者同士の情報収集や人脈作りの場になり、学校・家庭・地域の連携の場として必要性を感じる」という声もありました。

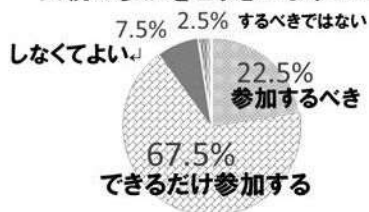
\* YES = 「参加したい・してもよい」  
 \* NO = 「できれば参加したくない・参加したくない」

活動を誰が行うのがよいか？



この質問では「夫婦一緒に」が6割。次に「その他」が多く、「祖父母や地域の人なども一緒に」や「やれる人がやればよい」という意見が多く見られました。母親だけではなく、家族、地域の幅広い人々のPTA参加を望む声が、全体の8割以上占めるという結果を得ました。

父親の参加をどう思いますか？



この質問からは、9割の母親が、父親のPTA参加を歓迎していることがわかりました。しかし、「できるだけ参加するのがよい」と答えた人の中には、父親の参加を切望していても、仕事などで忙しい夫に遠慮して、頼ったり相談したりすることなくあきらめている人が多いようです。

これらのアンケート結果から、ひとり親家庭の増加、少子化など社会や時代の変化に適応する工夫と、老若男女を問わず、誰もが参加したいと思える新しい場づくりが求められているように読み取れました。

### ★父親から見たPTA

残念ながら、男性からのアンケート回答は思うように得られませんでした。これは、父親のPTAそのものに対する意識や、興味、関心の薄さを表しているのでしょうか。

私達は、父親の本音を探るべく、父親達を中心となって活動している、埼玉県狭山市立御狩場小学校『おやじの会』の山田孝文氏にお話を伺いました。

### ★『おやじの会』とPTA活動のこれから

3人の子の父親である山田さんは、長子の小学校入学と同時におやじの会に参加。2012、2013年の2年間、PTA会長も務めました。

おやじの会では、入学式に校門前で写真撮影のお手伝いをしたり、運動会のテント設営や右拾い、校内の補修やペンキ塗りなど、さまざまな面から学校運営のサポートをしています。また地域交流行事として、夏は流しそめんやかき氷、

秋には焼き芋会なども行っています。

「御狩場小おやじの会は、入会も活動もすべて自由で、義務や強制は一切ありません。『できる人が、できる時に、できることを!』を唯一のモットーにしています。都内に通うサラリーマンや地元の



の頭言親いおう  
会このたけな  
運動は「けが  
日は「今日も  
時、「今子ども  
会長「頑張り  
PTAスピーチの  
P T A の よう だ  
の て 以 来 だ  
の つ て み 込 め  
し 毛 を 無 い と  
や じ 』 と 呼 ば  
れ て い ま す

自営業など、職種も年齢も多種多様ですが、『子ども達を笑顔にしたい!』という同じ目的があるので、自然と自主的に作業分担ができ、無理なく活動できています」

「おやじの会のこうした活動は、学校側や他の保護者からみても、とても頼もしいですね。ではPTAとの違いとは?」

「平等性や半強制といった難しい部分の違いはありますが、『子ども達のために』という基本姿勢は同じだと思います。だから、私がPTA会長を引き受けた時は、まず役員さんにそれをきちんと伝えることから始めました」

「具体的にはどんなお話をされたのでしょうか?」

「私達の活動一つひとつが、全児童の笑顔につながるんです。その中には当然、「ご自分のお子さんも含められます。ならばまずは、ぜひ役員としてのPTA活動を楽しんで、その姿をお子さんに見せてあげてください」と。活き活きと動き回る親を見て、うれしくない子どもなんていませんからね」

◆山田孝文(やまだたかふみ)◆  
愛知県岡崎市生まれ。フリーライター。狭山市居住歴15年。狭山市立御狩場小学校おやじの会所属。2012・2013年には同校PTA会長。さいたま市父子手帳制作にも携わる。

御狩場小学校おやじの会  
活動風景



御狩場小学校おやじの会  
Facebook  
<https://www.facebook.com/MIKARIBA.OYAJI/>

―なるほど。そこで役員の方々の反応はいかがでしたか？

「最初はみんな、必要以上に頑張りすぎたり、周りを気にして遠慮しちやったりするんですよ。だから『責任は全部オレが持つから、やりたいことを好きなようにやっちゃって！』と話しました。そうしたらみんな気が楽になったみたいで、しまいには私の尻を叩くぐらいに大活躍してくれました(笑)。まあ言ってみれば、PTAは『P(ばあつと) T(楽しく) A(遊びましょう！)』なんですよ」

目から鱗。こんな風にPTA活動をできたら楽しそうです。きちんと責任を引き受けつつ、自由度をもって任せてくれる存在がいることは、キーポイントのひとつかもしれません。「それから、役員さんからの意見は可能な限り聞き入れました。みんな、良かれと思って言ってくれることですからね。一方で私は、役員さんが無理なく『子ども達のため』に活動できるよう、事業内容の見直しや調整をどんどんやっていきました。そのおかげか、避難体験を兼ねた『学校に泊まろう！』

という新しい行事を私の強い希望で立ち上げた時には、みんな好意的に賛同してくれました。PTAで新しいことをやろうとすると敬遠されがちだと聞いていただけに、あの時は本当にうれしかったですね」

『風が吹けば桶屋が儲かる』じゃないけど、自分の子どもが可愛いのなら、まずはよそ様の子を可愛がろうよ、って思うんです。そうすればいつか、自分の子にもどこかから何かありがたいものがめぐり巡ってくるんじゃないかなって。私自身にしても、小学生はもちろん卒業した中高生、大学生や社会人になった子たちまでもが、今だに会うと挨拶してきてくれるんですよ。そういう瞬間に、おやじの会やPTAをやっているよかったですよ。心の中からうれしくなりますね」  
最後に、継続することの喜びも伺うことができました。

#### ★考察「男女間の意識のギャップよりも核心にある問題」

保育園や幼稚園の保護者会から始まって、PTA活動は「親なら参加するのが当たり前」という前提で目の前に立ち回らなければならないのか、どのような責任が課せられるのかなど、情報開示が乏しいケースが多いようです。4月の保護者会で自己紹介もそこそこに、立候補がいなければ、くじ引きなどで役員・委員を決め、全員平等に協力して活動するように強

いられているように感じてしまうのです。

生き方が多様化する現代において、数十年前の時代と比べても、ひとつのクラスの中で様々な事情の保護者が集まっています。共働き家庭の増加、在宅介護、ひとり親家庭、病气や障がいを持っている人、高齢出産の増加による高齢育児、核家族化による孤育て世帯、転勤族や地縁の無い家庭など。そんな背景を考慮せず、「長年続いてきたこれまでのやり方」に一律強制参加なところが、PTAの抱える問題の核心ではないでしょうか？

PTAの抱えるもうひとつの問題に、コミュニケーションの変化があります。ITツールの急激な普及で、情報伝達が便利になり、SNSなどで文字だけのやりとりが主流となっています。多種多様な生き方の人が集まる保護者の中には、ITツールが苦手で、使いこなせない・使いたくない人もいるにもかかわらず、全くの初対面で相手のことをよく知らない状態の中、いきなり文字だけのやりとりで活動が始まることが多く、これはコミュニケーションの圧倒的な不足や、ITを使いこなせる人への仕事の片寄りを生み出し、人間関係のトラブルへと発展する要因のひとつになるかも知れません。



#### ★楽しければ人は集まる！意識改革のススメ

そんな時代の流れの中で、保護者同士が、変化した環境や生き方の多様化を認識し、PTA活動本来の目的の共有と変革がなされ、目的達成のために有志を募りますというスタンスであったなら、「やりたい！」と言う人は必ずいます。

#### 解決法の一例

- ① 情報開示と目的共有のためのオリエンテーション実施。
- ② PTA運営問題の洗い出しのため、アンケート実施。
- ③ コミュニケーション方法の改善。
- ④ 「平等に一律強制参加」を止めて、ボランティア制導入。
- ⑤ 母親・父親という枠を超えて、地域住民を巻き込んで、コミュニティの場を創造。

#### ★編集後記

PTA活動に対する意見は、まさに多種多様で、それぞれに譲れない考えや事情があるのでしよう。であるならば、思いやりの精神で相手の立場に立って考えてみるという姿勢が、円滑にPTA活動を行う秘訣になるのかもしれない。数多くのPTA活動に対する問題を抱えつつも、私達は決して踏みとどまらずに歩き続けていきたいと思えます。これからの次代を担う子ども達のために。希望の持てるPTA活動を目指して。明るい社会、輝かしい未来を信じて。



さいたま市男女共同参画推進センター  
**パートナースhipさいたまスタッフ率直&情熱トーク**

『さいたま 地域力×女性力ブック』作成は、さいたま市共催の講座からスタートしました。所管課のパートナースhipさいたまスタッフのお2人(Aさん・Bさん)いずれも女性)に、男女共同参画推進に取り組む情熱を率直に語っていただきました。(聞き手:事務局)

**Q1. さいたま市民に「男女共同参画」の何を一番知ってほしいですか？**

A: 私は、2014年度にこのセンターに異動になって、いろんな講座を聞きながら、「自分はこういう固定観念に実は縛られていたんだ」と気づくことや「あなるほど」と腑に落ちることが何度もありました。古典的な性別役割の意識に始まるいろんな固定観念に縛られていると、女性は「自分がダメなんだ」と思ってしまうがちです。本当はそんな思いをしなくていいのに……。センターの講座には「自分自身を大切にしたいんだ」と気づく機会がたくさんあります。長年身についた固定観念から、いきなり100%解放されるわけではない

けど、いろんな学びがあつて、参加すると、世界がとてつもなく広がります。

B: 「男女共同参画」といいますが、私自身の関心は女性が抱える課題です。最近では「男性学」といつて、男性ならではの生きづらさも取りあげられています。が、やはりなんといつても女性の方が生きづらさを感じる人が多いと思えます。それは、娘・妻・母など、いろんな役割を押しつけられて、「自分自身」を生きたられないつらさです。実際には多くの女性が、そのつらさの正体を知らず、知る機会もなく「つらいな」と感じながら生きていくと感じます。でも、いったん自分で気がつくのと、そこから、自分らしさや本当に大切なものに気づいていくことができます。そうやって、自分らしい人生を送るための「芯棒」みたいなものを持つことを、さいたまの女性に知ってもらいたい、と思つています。

A: 「男女共同参画」という言葉そのものが、「めんどくさそう」「難しそう」など、敬遠されてしまうことが多いのは残念です。女性のみならず、どんな人にとつても大事なことで知ってほしいです。そういう意味で、センターの存在も、もつと知られてほしいなど。実は私、ここに異動するまでさまざま講座をやつていることを知りませんでした。

B: 悲しいことですが、他部署から異動してくる職員からよく聞く言葉です。



**Q2. 「一番知ってほしいこと」(Q1のお答え)「のため」に取り組んでいることは?**

事: 気を取り直して(笑)次の質問をお願いします。

B: 講座の企画に、「自分らしさや本当に大切なことに気づく機会」と「気づきを活かす知識の大切さ」を常に盛り込んでいます。生きづらさは感情ですが、それが知識とつながると、気づきがより強化され、今までの生き方の振り返りにも、これからの人生を考えることにも力を与えてくれます。そして、一方的な講義ではなく、参加者自身が話せることも大切になっています。その際、知識や情報だけではなく、自分自身が感じることをまず言葉にしてみることで、さらに他の人の言葉を聞いて、いろんな人のいろんな思いを感じながら気づきを増やしていくことが肝心だと思つています。



A: 広報をあれこれ工夫しています。「男女共同参画」という言葉が敬遠されがちですが、入れないわけにはいかないの  
で、そこを乗り越えるようタイトルや  
キャッチフレーズをつけたいです。パート  
ナークリップさいたまの講座に興味をも  
ってもらうにはどうしたらいいのかな、と  
いつも考えています。「必要な人に届  
ける」のは本当に難しいですね……。

事: でも、そういう気持ちで続けることに  
意味がありますよ。今年たてた企画が、  
今年必要な人に届くのは、残念ながら  
難しいかもしれませんが、ずっと変えず  
に、やめずに、続けていければ、いつかは  
届くと思います。

### Q3. ぶつかるハードルあるいは 苦労する点はどんなことですか？

A: この場で言っているのか迷いますが、市  
報への講座情報掲載は、とても高いハ  
ードルです。文字数が限られていて、講座  
の良さを伝えるのが難しく、講師名が  
掲載されないことも多いです。講座の  
良さや大事なことをどうやったら簡単  
に説明できるか、いつも悩んでいます。  
「男女共同参画」をもっとストレート  
に、わかりやすく端的に説明できたら  
……。本当に難しいです。いま策定中の

第4次男女共同参画基本計画※に、男  
女共同参画推進センターの存在意義  
を盛り込んでほしいですね。関心が薄  
い人にも納得してもらえそうな表現  
が出てくるといいと思います。

B: パートナークリップさいたまには、講座  
企画や記録誌作成など、市民委員参  
加のプロジェクトがいくつかあり、市民  
のニーズに直接触れて一緒に企画がで  
きるのとはとてもいい点です。でも、その  
中で「男女共同参画」理解の壁にぶつか  
ることが、ままあります。講座企画や  
記録誌のことで話し合っている中に、性  
別役割の固定観念などが透けて見え  
ることがあるのです。

事: そういう時は、どう対応するのですか？

B: まず、「どうしてそういう風に感じる  
の？」と問いかけて、発言に込められた  
意味を探ります。他の委員からの質問  
や意見もあり、会話を通じて、1段階  
でも2段階でも、時には0.5段階でも理  
解が得られたらいいなと思いつつ、私は  
会話の行方を見守ったり、転換の口火  
を切ったりしています(笑)。

事: ハードルを、逆に機会ととらえて、男  
女共同参画を進めるために活用され  
ているわけですね。会話に参加した人  
も、ただ聞いていた人も、みんな何らか  
の点で理解が深まるという、貴重な場

ですね。

B: 家事、子育て、そのほかいろんなことに  
ついて、お互いの捉え方が見える会話が  
ああたこうだと行きかいつつ「じゃ講座ど  
うしていく？」と本題に戻ります(笑)。

事: とても実のある啓発の場ですね。  
B: 楽しんでいきます(笑)。



### Q4. スタッフの方々は、どんなパー トナークリップを築いていますか？

B: 私は非常勤職員で、正職員1人と一  
緒に講座の企画を担当しているので、  
担当職員がどんな人かは、かなり重要  
です。Aさんのことを「すごく切れる人  
だから」と聞き、期待して、会ってみた  
ら実際、堂々としていて切れる人だと  
思いました。だけど、講座運営が始まっ  
てみるとかわいいところがあつて(笑)  
堂々としたAさんが「司会が苦手」「私  
あがつちやうんです」なんて言う。あん  
まり本気にしてなかったんですが、いざ  
始まったら、ホントに固まってしまったの  
です(笑)。びっくりしながらフオーローに  
入って、なんとかその場はおさめました。

その後も何度か、とても素直に自分の感情や弱点をさらけ出すところを見て、人柄が伝わり、安心感が生まれ、そこからおたがい本音トークの関係になりました。

A: Bさんは、とにかく明るいらしいし、気さくで、決断力もあって、メンタルが強いです。ネガティブなこともはっきり言います。顔にも出ます(笑)。会議の席上、私が「あれ？」って思った時にはもうBさんの肩間に入っているんですよ。それで、なにか疑問点や怪しいことを感じたら、ついBさんを見てしまいます。私は堂々としていてと言ってもらいましたが、本当は細かいし緊張するのになかなか信じてもらえませぬ(苦笑)。仕事の上でも、細かいことで、「ああしようかな、こう思われるかな？」と気にしてしまう優柔不断なところがあります。そういう時Bさんに相談すると、すぐに決めてくれます。そして物怖じしない。講師交渉でも、まったくつながりのない専門家にいきなり電話するなんて……と私だったら迷っちゃうんですけど、Bさんはどんどん果敢にアタックします。そして、巻き込み力がすごいです。「Bさんの催眠術」という言葉があるくらいです。

事: 面白いですね(笑)。

B: Aさんも面白いですよ。いい意味で役所の人っぽくない。

事: 実は、私達のメンバーで、異動前のAさんを覚えていた人がいます。役所の窓口で何度か行ったとき、そのたびにフロアで一人だけ立ち上がって応対してくれた人だと。「講座の司会ですつがなくとも市民対応が感じ悪い人っているけど、逆だよ」って話していました。

A: 自分では、落ち着きのなさが我ながら「大丈夫かな？」と思うところはあります。年齢と共に同期が落ち着いた感じになるので。でもあんまり落ち着くと、若い職員とコミュニケーションが取りづらいんですよ。私はあえて自分の方から話しかけるし、窓口でも、市民の方に心を開いてもらいたいので進んで動きます。

B: 公務員の口から「心を開いてもらおう」という言葉が出てくるところがすばらしい。みんながこうあるべきなんです。そういう人は本当に少ない。セクシャルマイノリティーじゃなくて、公務員マイノリティー!(笑)

A: そうじゃなきゃ、本音が聞きだせないし、大事なことが伝わらないじゃないですか。こちらが弱みを見せたら向こうも言うてくれることがありますよ。

## Q5. 『さいたま 地域力×女性カブック』に寄せる期待は?

B: 講座で出会ったメンバーは、冊子作成の初心者もあり、経験者もありで、グループ内のすり合わせも、取材先との交渉も、大変なことの連続だろうと思います。でも、続けていけば、冊子という成果が必ず出ます。今、精一杯頑張れば、完成の暁には、始める前より数段スキルアップしていると思います。皆さんが今まで生きてきた中での体験や実感が込められた、本音が形になっているような冊子が読みたいです。できれば、パートナースhipさいたままで引き続き活動してください!

A: 自分達で取材して記事にまとめることは、とても大変ですが、やり遂げると実力がついて、自信が生まれます。この経験を活かして、またいろんな方面で活躍できると思います。もちろん、パートナースhipさいたまの広報活動にも積極的に参加していただきたいです。一人ひとりが思っていること、伝えたいことが、読者に伝わるような冊子を期待しています!

(2015年10月)

## パートナーシップさいたまはこんなところ！



- **住所** さいたま市大宮区桜木町 1-10-18  
(シーノ大宮センタープラザ 3階)  
TEL:048-642-8107/FAX:048-643-5801
- **開館時間** 平日 9時～21時  
土・日・祝日 9時～17時
- **施設案内** 交流コーナー／情報、資料コーナー／  
会議室 1・2・3／プレイルーム／  
授乳室／印刷コーナー／  
コインロッカー

※写真提供：パートナーシップさいたま

### ●● 耳寄り情報 ●●

#### 1. プレイルームの上手なつかいかた

プレイルーム（子どもの託児スペース・無料）は会議室（有料）とセットで予約することになっています。プレイルームでは、子どもを見守りつつミーティングや活動をすることができます。詳細はご相談ください。

- ・大人と子どもを別室にする場合は利用者が保育スタッフを手配ください。
- ・利用するためにはパートナーシップさいたまでの団体登録が必要です。

#### 2. 毎年度「市民企画講座」運営団体を募集しています

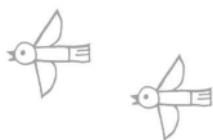
さいたま市の男女共同参画推進に役立つ講座を企画・運営する団体を募集しています。講座の運営費用を助成するほか、会場提供・広報協力などの支援を行います。意欲的な団体の応募をお待ちしています！（例年5月ごろに市報やチラシで募集）

※ 「スタッフ率直&情熱トーク」用語解説

**「男女共同参画基本計画」** 日本国内の男女共同参画推進に取り組む領域や目標を示す計画。男女共同参画社会基本法に基づき、内閣府男女共同参画局が中心となって策定します。原則として5年ごとに見直しが行われます。第4次男女共同参画基本計画は、2015年12月25日閣議決定。

## 女性の知恵で読み取る／発信する講座

### 「さいたま 地域力×女性力ブック」をつくろう！



#### ◆◆ 参加者一覧&編集後記 ◆◆

☆ はグループリーダー

#### 経済グループ 「Team Keizai」

☆菊池由樹／石川美実／小高香織／杉山明子／野田真由美

企画からアンケート・取材・執筆を行う中で、女性達の貴重なお話を伺う機会に恵まれ、勉強になりました。

#### 政治グループ 「Ms.Tamako」

☆田中明子／川名亜矢子／田村磨弥

それぞれの想いをぶつけ合い、探し合い、想い合い、紆余曲折を経て作り上げた作品。地域力女性力アップ！

#### 教育グループ 「親2(おやつ)の時間」

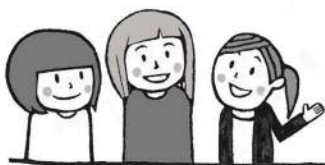
☆沼田裕子／稲垣美穂／入間川美佳／小谷松裕子／松本かおり

環境・背景の異なるメンバーが各自の知恵を結集しました！冊子作りを通じた新たな経験と出逢いに感謝です！

#### 健康グループ 「にじ」

☆田嶋麻帆／新井真理子／平澤めぐみ／渡部草貴

暮らしを足元から見つめ、感じ考え自分の言葉で伝えること。仲間と共に得た貴重な体験を更なる未来へ！





◆◆ 「さいたま 地域力×女性力ブック」事務局スタッフ編集後記 ◆◆

冊子作成本当におつかれさまでした！

皆さんの女性力で、さいたま市に新たな波が広がっていきますように！

古川晶子（「女性の知恵で読み取る／発信する講座」運営責任者）

講座で初めて会った人がグループとなり、力をあわせて完成した冊子です。

いろんな方に読んで欲しい！

駒形生子（『さいたま 地域力×女性力ブック』編集長）

いや～感動です！！とても素晴らしい経験ができました。ありがとうございました。

遠藤ひろみ（『さいたま 地域力×女性力ブック』ビジュアルディレクター

／政治グループ担当）

チームで真剣に取り組む姿に感動しました。

今回の気づきとご縁がさらなるご活躍につながりますように。

森實摩利子（経済グループ担当）

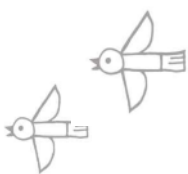
皆さんの真剣な取り組みに、私も襟を正される思いでした。冊子、大切にします。

安部佳世（教育グループ担当）

初めて出会った人たちと作り上げる過程も宝物だと感じました。

今後につながりますように！

細田恭子（健康グループ担当）



平成 28 年 2 月

発行 一般社団法人さいたまキャリア教育センター

〒330-0081 さいたま市中央区新都心 2-2

WithYou さいたま 3 階

E-mail [saitamacec@saitamacec.jp](mailto:saitamacec@saitamacec.jp)

FAX 048-610-8618

URL <http://www.saitamacec.jp/>

